

くずし字入門講座 No.3 テーマ「数字・度量衡」 第1問 解説と読解例

⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
//	中田	荒	//	//	中畠	//	//	下畑	荒田	中	下畠
七畝十八歩	十歩	六歩	壹七 <sup>畝</sup> 十二歩	四歩	廿一歩	四歩	八歩	十二歩	十六歩	十二歩	壹七 <sup>畝</sup> 六歩
壹石壹斗五升	五升	四合	壹斗壹升	壹升三合	五升七合	八合	壹升六合	貳升貳合	三升五合	貳升九合	九升六合
三郎右衛門	同人	忠衛門	藤四郎	藤右衛門	同人	忠右衛門	藤五郎	忠衛門	三郎右衛門	藤左衛門	藤四郎

(①～⑫の丸数字は首部から何行目かを表します。)

今回の課題は検地帳ですので、全体を通して数字や単位を表す漢字が多いのが特徴です。また、何回も同じ字が登場しているため、一度出てきた字の特徴を覚えておいて解読に役立てるというテクニックをどんどん活用しましょう。

①「壹」については、ここには数字が入ること、大字の可能性もあると考えて辞書を引いてみれば分かるはずですが、書き順や形状も「壹」を想起させます。「土」のような字が見えているのが大きなヒントです。

また、「歩」も一見すると「ト」や「斗」と思ってしまうかもしれませんが、ここには単位が入るだろうと予想できれば、どんな字が考えられるか絞り込めます。さらに、他の部分も観察すれば、面積の単位が入るだろうと予想できるので、「歩」か「分」から悩むこととなります。今回は「歩」と書かれていますが、「分」となっていることもあります。

「七」については、漢字にすると「畝」です。「カタカナのはずがない！」と思われるかもしれませんが、⑫で「畝」とありますから、「ひょっとすると画数が多い字を何度も書くのが面倒で「セ」にしたのではないか？」と考えましょう。

②「貳」が難しいですね。形状としては「武」「式」「我」に似ているでしょうか。ここもやはり数字が入ると予想できますから、数字以外の可能性を排除して考えるのがポイントです。

③「六」ですが、うっかりすると「二」としてしまいがちです。わずかに点が見えるので、見逃さないようにしてください。また、「五」は初めて見たという方がいるかもしれませんが、台形であることや何らかの数字が入ることから予想して解読しましょう。典型的なくずし方なので、形で覚えてしまうのも良いでしょう。

④「二」と「貳」が登場しています。いずれも他の部分で登場している字なので、形が似ています。このように、同じ数字であっても、大字と小字を両方使っていることがあります。

⑤「壹」は①で登場した時と形がそっくりですから、同じ字であろうと考えて解読しましょう。

⑥「四」が大きくくずされていますね。ただ、四角形のような形状をしていますし、やはり数字が入るでしょうから、それらしい形の字を探しましょう。

⑦「廿」は初見では大変ですが、数字が入るだろうと予想して辞書を引いていくとみつけられるはずですが、「十」+「十」がくっついているから、合計して「二十」と考えた人はいいセンスです。

⑧～⑪「斗」と「升」がよく似ていてよく分からない方は⑨が大きなヒントとなるでしょう。「斗」と「升」の両方が登場しており、比較することができます。ここでは、「ト」のようなパーツが見えるほうが「升」、そうではないほうが「斗」と判断すれば、ほかの部分も読めるようになるはずですが。

⑫「石」については、書き順を観察して自分の手でなぞり、「斗」や「升」より大きな容積の単位と予想すれば導けるはずですが、「右」にも似ていますが、ここで「右」としてしまえば意味は通じません。

なお、「十八」は「六」にも見えますが、他の「六」や「十」の書き方から判断して「十八」としました。